

**もくじ** ウクライナ→〇〇、ズデーデン地方→ポーランド いまいちりょう /  
沖縄は観光気分で行くようなところじゃなかったよ… 毛利孝雄 /  
不可能な工事は止めるべきだ 加藤宣子 / 琉球弧と中国と台湾有事 若槻武行 /  
台湾有事に備え南西諸島への自衛隊配備-ノーモア沖縄戦-命どう宝の会 /  
安倍元首相に“おまえが語るな”大合唱! / 「不承認」支持 ブルーアクション パンプ /  
3/24 南部遺骨土砂に関する院内集会 /  
3/20 社会連帯カレッジ/ 沖縄復帰 50 年集会プレ企画「分断を超えて連帯へ」 /  
5/28 辺野古土砂全協・総会 / 「首都圏グループ」活動と組織

## ウクライナ→〇〇、ズデーデン地方→ポーランド 歴史は繰り返すのか…

いまいちりょう (編集委員)

「デジャブ」=これ、どこかで見たことある… そんな感じ。こどもも含めて国家総動員、竹やり訓練、それは国民にとってとてつもない悲劇につながる。

当初、米軍は日本の軍事施設に的を絞って空襲していたが戦果があがらなかった。新しい司令官となった鬼畜ルメイは「日本人は女、こどもも含めて全員が戦闘員だから皆殺しにしてもよい」と方針を変えた。そして無差別爆撃、原爆投下に至る(タイトルは忘れたがNHKの番組から)。そのルメイに日本は「空襲ありがとう」と、よりによって天皇陛下名で勲章を献上した。ロシアのジリノフスキーから「日本は原爆落とされたら感謝してくれる。だったらロシアも落としてやろうか」といわれたくらいだ。



**ズデーデン地方**(ドイツ人居住地域)は、第一次大戦後、チェコスロバキアに編入された。300万のドイツ系住民は「最大の少数民族」となる。1920年9月20日、チェコ政府は「チェコスロバキア語」を唯一の公用語とした。ドイツ人学校は次々に閉鎖。世界恐慌でドイツ人の失業率は高くなり生活は悲惨に。チェコ人の雇用優先で不満が高まる。抗議と警察の暴行などの弾圧もあり、ヒトラーはドイツ人が迫害されていると難癖をつけ、1938年9月29日ミュンヘン会談でドイツ領となる。しかし「これで戦争は回避された。めでたしめでたし」とはいかなかった。翌年の1939年9月1日ポーランド侵攻で第二次大戦。

東ウクライナのロシア系住民も政変後、ズデーデン地方と似た境遇になったようだ。親口政権が倒されると、泣く子も黙るネオナチが闊歩し、ロシア系住民を迫害(オデッサ大

量虐殺など)する。2020年1月16日には、ウクライナ語以外で書かれた広告を禁じる法を施行。出版物やテレビ番組、ネットサイトから看板などすべてが対象。ロシア語の影響力を排除する狙い。ロシア語を母語とする人は反発。商品・サービス情報をウクライナ語で記さない場合、最高(約3万円)の罰金が科される。ただ欧州連合(EU)の公用語を使うメディアは外国語広告を認める。

そんなこんなで、ロシア系住民の保護を口実にロシアは侵攻した。この後どうなるかわからないが、核兵器をもつ**ロシアの侵略がこれで終わるのかどうか**…。次のターゲットは？南下を目指すならトルコ(コンスタンチノープル)に入るかもしれない。トルコはしたたかなのでロ軍を平和的に受け入れる可能性もある。そして次は？地図を見るとイスラエルだ。そこが気がかりだ。イスラエルとイランは水面下で交戦状態(レバノン・シリアで)と言ってもよい状態だ。そう遠くない将来、ロ軍がトルコに入るとイスラエルまでいく可能性がある。しかし、ここにだけは入ってはいけない。入るとイスラエルは必ず核兵器を使うだろう。それを上回る兵器も持っているという。ロ軍はここで全滅する。だけでなくロシアも滅亡するだろう。

ロシア人に友人・知人がいたら是非伝えてほしい。「絶対に入るな」と。これはある種の国際常識なのだが当のロシア人は知っているのか？エリチンはそれを知っていたから、ロシアが南下しないためにクリミアをウクライナに譲ったのかもしれない。

「今からでも遅くない。ロシアを愛するロシア兵はみんな命令を拒否して我が家にもどろう」と伝えたい。

---

## 不可能な工事は止めるべきだ 辺野古の軟弱地盤埋立て

加藤 宣子 東京都区内在住

沖縄県の『琉球新報』3/5の「論壇」に、東京での辺野古新基地建設反対の集会やデモで共に行動してきた仲間の投稿が掲載され、現地で注目を呼んだようです。その全文を転載します。

私たち「Stop! 辺野古埋め立てキャンペーン」は東京で、辺野古の埋め立てを受注している本上の企業に対し「軍需でもうけない、環境を破壊しない、地元住民の声に耳を傾けよ」との要請活動を8年続けている。2014年7月から仮設工事を受注し、その後埋め立て工事を請け負った大成建設への要請、そして埋め立て工事を行う大林組や五洋建設、埋め立て設計を受注した日本工営、サンゴ移植をするエコーなどに要請行動をしてきた。

今から2年前の2020年2月2日、ちょうど深度90mの軟弱地盤の埋め立て方法が話題になっていたところ、砂ぐいを打つ作難船(サンドコンパクション船)を所有する(株)不動テトラに要請書を持って訪問した。私たちのように要請に訪れる人もないのだろう。日本橋のビル前は嚴重にガードされ、社員の方が早々から待っていた。

私たち仲間が4人で中に入り数名が外で「不動テトラは辺野古の工事を受注するな!」というプラカードをもってスタンディングをした。中に入った私たちは応接室に通されると、担当者は「お答えすることはできません。話を聞いておきます」と繰り返した。私たちのブログにもしっかり目を通していただ。

私たちは「軟弱地盤工事の受注をしないでほしい」という内容の要請書を読み上げてから手交した後、それぞれが辺野古への思い、戦争につながる基地を造ることの横暴さ、基

地ある故の事件・事故に苦しみ、基地をこれ以上造ってほしくないという沖縄の民意について話した。

30分ほどの面談を終えて、応接室を出た所にサンドコンパクション船の模型が飾られていたので、つい「90mの軟弱地盤の埋め立ては本当に可能なんですか」と案内をしてくれた社員に声をかけた。すると「未知数ですね」という答えが帰ってきた。本音であろう。

日本作業船協会のHPによると、サンドコンパクション船は、あおみ建設と不動テトラの2社が所有し、不動テトラの「ばいおにあ第30フドウ丸」は2018年にリニューアルされ、70mまでの地盤改良ができるという。軟弱地盤中に締め固めた砂ぐいを造成し、地盤改良を行う作業船である。

90mの軟弱地盤の埋め立ては、専門の海洋工事を請け負う企業が「未知数です」と言わざるを得ないほど「不可能」な工事なのだ。沖縄防衛局提出の「設計変更申請」でも、この軟弱地盤の改良工事について具体的な方法は示されていない（2021年11月に玉木デニー沖縄県知事が不承認）。2021年3月までに日本工営が設計を受注していたが、どうやって基地を作るのか、それすらはっきりしていない。そんな不可能な工事は直ちに止めるべきだ。

## 沖縄は観光気分で行くようなところじゃなかったよ…

沖縄大学地域研究所特別研究員 毛利 孝雄（当会世話人）

名護市長選、絶対勝てると思った岸本洋平さんの敗北。私たち世代には、彼の父にあたる岸本建男さんの記憶が鮮明に残る。「復帰」後押し寄せる「本土」資本に抗い沖縄の真の豊かさを説いた「逆格差論」や、市長時代の辺野古新基地をめぐる政府との攻防と苦悩……。

これらの記憶は、沖縄戦の記憶も含めて、若い世代にはほとんど届かない、響かないということなのだろうか。出口調査による年代別投票先調査結果——40代・30代・20代と若い世代になるほど高率になる現職自公市長支持の広がり、不気味ですらある。それは、歴史の継承に責任のある私たち世代への深刻な問いを含んでいるように思う。

以下、カンパの他には、何もなしえなかった私のごくごく私的なメモ。思い起こしたのは、沖縄をめぐる母との「痛恨の」エピソード。

私の母は長野県伊那谷の天竜川沿いの農家に3女として生まれ、当時としては高学歴の高等女学校まで進み、地元で就職もしている。戦後、結婚のため上京し、嫁ぎ先の呉服小売業と家事に従事しながら、私と弟の二男を育てた。夫60歳で急逝の後、しばらく単身で呉服店を続けた。財産といっても呉服の在庫しかなく、売って換金しなければならなかったからである。

単身での呉服小売りにも慣れ落ち着いた80年代はじめの頃だったと思う。しばらく旅行で留守にする、という連絡があった。里帰りの他は、遠出の旅行などしたことのなかった母が、初めての長期旅行の旅先に選んだのが沖縄だった。息子たちにアルバムを見せながら、つぶやくように語った母の言葉が忘れられない。

「沖縄は観光気分で行くようなところじゃなかったよ」

沖縄観光には南部戦跡の見学が含まれていただろうし、観光バスの車窓からは国道沿い

に延々と続く米軍基地のフェンスも目にしたはず。それらは母の戦争体験とも重なっていたかもしれない。

当時の私には、それ以上に話をつなげる力も、沖縄に対する興味や知識もなかった。先に「痛恨の」と書いたのは、おそらくこのときが、母の戦争体験と交わりうる唯一の瞬間だったのだということ。その瞬間を、私は何事もなかったかのようにやり過ごしてしまったのだ。

晩年になって、いつの頃からか短歌に親しむようになった母は、よく『NHK歌壇』に投稿して「入選したんだよ」と、自作の載った冊子をうれしそうに見せてくれたことがあった。書きためている短歌がかなりの数に上っていることを知って、私の方で整理するから一冊の本にまとめてみないかと話したことがあったが、生前には決してその全体を見せてくれることはなかった。2008年92歳で生涯を閉じた。

遺品を整理する中で、短歌は2冊の創作ノートにまとめられていた。母の戦争体験ということでは、次の3首。

- \* 初恋の君のいませし街なりと旅来し老の血潮さわげる
- \* 征きてより逢うことのなき六十年訃報を聞けば涙こぼれぬ
- \* 黒髪は今は真白に霜置けど別れのいたみ今に忘れず

とくに「初恋の…」には、読み進めなくなるほどの存在感があった。晩年、足繁く信州に通った母をいとおしくも思う。母にとって「昭和」「戦争」の時代とはどのようなものだったのか、もう聞くことはできない。

私が初めて沖縄を訪ねるのは、母の沖縄旅行からはさらに20年近く後になってのことである。沖縄を知ることがなければ、母の戦争体験に思い到ることもなかっただろう。そして現在の私がある。

母の逝った年齢92歳を私の終年の定点とするとして、あと20年。戦後まもなくの時代を生きた一人として、次の世代に何を引き継げるのか、少なくなっていく時間の中で考え続けたい。

そして、あらためて新基地建設の進む辺野古、台湾有事を想定して進む南西諸島の軍事化を思う。さらに、核攻撃まで誇示してのロシアによるウクライナ軍事侵攻は現在進行形だ。

「軍隊は住民を守らない」「命どう宝」など沖縄戦から導かれた非戦の戦争観に対し、「私たちが享受している平和と繁栄は、戦没者の皆さまの尊い命と、苦難の上に築かれたもの」（令和3年度全国戦没者追悼式総理大臣式辞）など、本土に流布する戦争観のなんとあいまいなことか。

最近読んだ、大江健三郎著『晩年様式集』（2013 講談社）の終章の詩には、次の一節がある。

「…… 否定性の確立とは  
なまなかの希望に対してはもとより  
いかなる絶望にも同調せぬことだ ……」

~~~~~

## 琉球弧と中国と台湾有事

### 戦争をさせない非武装の運動を

若槻 武行（編集委員、当会世話人）

何十年という長い年月も過ぎてしまえば、ついこの前のようだ。年を取ると時間が経つのが速くなる。日本は小生が生まれた時もまだ、中国を侵略・植民地化を進め、殺戮、強

奪、抑圧する戦争を続けていた。アヘン戦争以来近年まで、日本を含む欧米列強からの侵略で、中国・アジアは分断と抑圧で苦しめられて来た。

その構図は、日本人の差別意識と共に今も変わっていない。一時的に友好関係を保っていた時期もあったが、それが一たび崩れると、差別・抑圧とそれに対する恨みつらみがぶつかる……！ そんな国民感情を利用し、台湾有事、中国との戦争脅威が過剰に騒がれている。

1月7日開催「日米外務・防衛担当大臣会議」(2+2)で「琉球弧」全域(第一列島線)の対中国戦争の最前線基地化の合意が明らかになった。

沖縄本島の辺野古新基地は、その要だ。普天間基地の単純な移転先ではない。滑走路を二本、オスプレー搭載空母の軍港、弾薬庫などを完備し、普天間基地をはるかにしのぐ巨大な新基地である。しかし、その工事は今、難航している。辺野古新基地の埋立て工事は、まだ8割以上が残っている。

※ 最初の工事は大浦湾の深場の埋立てからだった。沖縄県は不許可だが、なぜ後回しにしたか。この海域の水面下30mの海底が0~60mマヨネーズ状の軟弱地盤だったから。その地盤改良のため直径1~2mの砂杭7万本を打ち込み、埋立てるといふ。しかし、90mもの砂杭は前代未聞、経験がない。技術的には無理があり、完成後の地盤沈下は十分予想できる。従って「この海域の埋立は不可能で、工事はとん挫する」と専門家の多くが言っている。

それでも辺野古新基地建設工事を続けたい理由はなにか。メンツとか、利権とかというつまらない理由が強い。それ以上に、台湾有事に備えることも大きい。日本の自衛隊を背後から支えたいため、米軍というより日本政府の意向ともいえよう。

中国の侵攻に備え、沖縄本島から南に宮古・石垣・与那国島・台湾と、北は奄美群島、トカラ列島、大隅諸島、九州の「琉球弧」軍事要塞化が進んでいる。ここは「台湾有事」に中国との戦場となる。だから自民党政権は辺野古新基地工事を強引に進める。特に安倍政権時代の2019年から、この島々に最新型の実験ミサイルを配備した自衛隊基地建設を本格的に進めている。

まず、宮古島に陸自警備部隊、地対艦・地対空ミサイル部隊など800人規模を、石垣島も同様に地対艦・地対空ミサイル部隊など600人規模を、与那国島では最新大型レーダーを装備した沿岸監視部隊150人規模を配備した。

時を同じくして、奄美群島でも自衛隊の基地が増強・増設されている。奄美大島奄美市に2019年3月、奄美駐屯地に陸自の地対空ミサイル部隊他を配備、瀬戸内町節子では同じ2019年に、瀬戸内分屯地に陸自の地対艦ミサイル部隊他を、島内ではさらに空自の高性能レーダー部隊、海自の基地分遣隊などがあらたに配備された。

喜界島や沖永良部島等にも高性能レーダーが配備の通信基地になっている。また、奄美の北の薩南諸島で種子島の隣の馬毛島にも陸海空自と米軍の飛行場があり、情報本部として事前集積拠点になって、「琉球弧」では軍事要塞化が完成しつつある。

中国にとっては「目の上のたん瘤」どころではない。まさに対中国最前線基地だ。地方自治・民主主義もない、「本土」との分断は露骨だ。すでに「一触即発」に備えている。気が付いたら、戦争はもうそこまで来ていた。

「国民」は何も知らされず「アメリカが助けてくれる、一緒に戦ってくれる」と期待しているが、それは甘い。アメリカは、最初はいつも当事者にヤラせる。朝鮮半島でもアジア各地でも、アフガンでもそう。逃げ出したアメリカがどれほどいい加減だったか……。

ウクライナでも出てこない。勝てそうになったら出て来る(相手のアメリカを引きずり

込む作戦に乗って)。最後は放り出して逃げ出す。アフガンなど気の毒だ。

非武装、非暴力を批判する人は多い。侵略されないために、武装が必要だという。武装は必ずエスカレートする……。「非武装は無力だ」と言う人が多いが、小生は飽くまでも、武装する前に「戦争をさせない、やめさせる、反戦・平和・非武装・非暴力の運動に自信をもって邁進したい」と思っている。



自然豊かで平和な奄美の沖永良部島にもレーダー通信基地が作られた

## 台湾有事に備え南西諸島への自衛隊配備

呼びかけ ノーマア沖縄戦 命どう宝(ヌチドゥタカラ)の会

共同代表 : 石原昌家、具志堅隆松、ダグラス・ラミス、宮城晴美、山城博治

\*HP アドレス : <https://nuchidutakara.wordpress.com/>

南西諸島への自衛隊配備が尖閣防衛などではなく、台湾有事の際、日米合同の軍事拠点確保にある。それが、昨年1年で明らかとなった。沖縄等南西諸島の島々を戦場とすることを当然に前提としている。「オール沖縄」を支える活動として、賛同を呼びかけたい。

### 全国へのメッセージ

平和を愛する全国の友人の皆さま。今、「南西諸島」全域が戦場にされようとしています。日米両政府は「台湾有事」を声高に喧伝し恐怖をあおり、「有事勃発の際」には台湾に近い沖縄の島々(与那国島、石垣島、宮古島、沖縄島)や鹿児島島の奄美大島、馬毛島など「南西諸島」と総称される島々が戦闘に巻き込まれ戦場になると公言してはばかりません。それもそのはずで、現在これらの島々には対中国戦争をにらんだ自衛隊のミサイル基地やレーダー基地そして自衛隊員の駐屯基地が急ピッチで建設され部隊配置が進められています。「有事勃発の際」にこれらの島々から近海を通過する中国艦船や航空機にミサイルが発射されて攻撃が加えられる計画です。

さらに昨年相次いで開催された日米首脳会談や外務・防衛担当閣僚協議「2プラス2」では、日米が一体となって行動することが確認されました。島々の自衛隊基地は米軍との共同使用となり、同時に米軍の長距離高性能ミサイルが配備され、島々から直接中国本土を攻撃できる態勢を構築することが合意されています。

昨年末、この日米共同の軍事行動計画を共同通信がスクープし初めてその概要が明らかになりました。岸田首相がにわかに強調し始めた「敵基地攻撃能力」は直接的には自衛隊の攻撃力強化を指していますが、**事実上は米軍の長距離ミサイル配備**を指していると考えられ、これが戦争の引き金になりかねません。



この日米の中国をにらんだ共同の軍事計画は、当然対象にされた中国の強い反発を呼んでおり、計画通り軍事行動が展開されると、島々が真っ先に反撃の対象とされ戦場となることは必至です。ひとたび戦火が開かれると島々は逃げ場のない地獄の戦場と化すことは誰の目にも明らかであるにもかかわらず、残念ながら、日米両政府からは「有事」を回避するための外交努力が全く窺がえません。それどころか、日本政府はことさらに「中国脅威」を喧伝して国民世論を「戦争やむなし」に誘導しているとさえ思えてなりません。岸田首相はじめ政府閣僚、自衛隊関係者の言動に身震いする恐怖を覚えます。

全国の友人の皆さま。 私たちはこのような事態にあたり、再び沖縄の島々を、「南西諸島」全域を戦場にさせまいと、去る1月31日「ノーモア沖縄戦 命どう（ヌチドゥ）宝の会」を設立し、県内外に「戦争反対」「外交で平和を築け」との私たちの強い思いを発信することにいたしました。会の設立趣旨、活動計画など詳細については、ホームページをご覧ください。戦争へと暴走する日米両政府の拙速な軍事行動を止め、対話による平和を求める世論を作り出し、その力で無謀な戦争を止めましょう。全国の皆さまのご理解とご賛同、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。戦争へとひた走る政府の暴走を共に止めましょう。

(2022年2月5日)

~~~~~  
**戦没者遺骨が含まれる土砂を辺野古新基地建設の埋立てに使わせない**

## 3/24 院内集会を開催

沖縄県は辺野古新基地建設に係わる設計変更申請を「不承認」とし、知事会見では、「遺骨土砂」問題に触れて「人道上、許されるはずもない」と、国の姿勢を厳しく批判しました。

南部地域での鉱山開発計画をめぐって、昨年5月に沖縄県は、熊野鉱山の業者に対し遺骨の有無について関係機関と連携して確認することなどを求める、自然公園法に基づく措置命令を出しました。業者側は、これを不服として国の公害等調整委員会に取り消し請求を行い、第2回審理が3月24日（木）に行われます。

審理内容と裁定は、今後の南部地域での鉱山開発に大きく影響します。審理当日、次ページの取り組みを行います。沖縄から具志堅隆松さん・「ガマフヤーを支援する会」谷大二さんが参加されます。

宗教者共同声明に署名をいただいた皆さん。また、自治体決議(裏面に一覧)の採択に尽力されている皆さんに参加いただき、交流と一層の取り組みの機会にしたいと考えています。

### 3月24日（木）の行動

#### [1] 公害等調整委員会への要請と門前アピール

\* 14時30分～ 30分程度を予定

\* 中央合同庁舎第4号館前（千代田区霞が関3-1-1）

・最寄り駅－国会議事堂前・霞ヶ関・虎ノ門

## [2] 公害等調整委員会の傍聴

\* 15時30分～

\* 中央合同庁舎第4号館 10階 公害等調整委員会審理廷

\* 傍聴者の人数制限があるため、抽選の場合があります

## [3] 院内集会

\* 公害等調整委員会審理終了後 17時ごろからを予定

\* 衆議院第2議員会館 多目的会議室

※ 16時30分より通行証を配布します

\* **具志堅隆松さん、谷大二さんの講演**

「**辺野古埋立工事の今後と沖縄南部地区の土砂問題**」

\* 自治体意見書採択－各地の取り組みの交流

\* 資料代 500円

### ※ 3.24 院内集会の講師の変更について

すでにご存知の方も多いかと思いますが、**北上田毅さんが体調を崩されています**、24日の参加は困難になりました。北上田さんには、健康の回復を最優先にお願いしたいと思っています。

また、**具志堅隆松さん**は沖縄での予定との調整で、リモートでのお話いただくことになりました。

沖縄からは「**ガマフヤーを支援する会**」の中心で活動されている**谷大二さん**が上京され、お話をいただくことになりました。

### 【呼びかけ】

**平和をつくり出す宗教者ネット／「ガマフヤー」を支援する会**

東京都渋谷区神泉町8-7 日本山妙法寺内 090-6711-5573 (江上)

【協賛】 沖縄・一坪反戦地主会関東ブロック／沖縄の闘いに連帯する関東の会／辺野古土砂搬出反対!首都圏グループ／東京・地域ネットワーク／戦争させない千代田の会／オールめぐるの会／平和を学ぶ会・台東／大田区議会請願人／辺野古に基地はいらない in 三鷹／辺野古問題を考える小平市民の会／東村山市議会陳情人一同／沖縄県民と連帯する府中の会／沖縄とわたし@町田／対話による解決を求める日野市民の会／沖縄基地問題を考える小金井の会／清瀬市議会陳情人一同／沖縄支援版画ビラ撒き東久留米／辺野古新基地問題を考える川越の会／上福岡沖縄てえげえの会／九条の会・さいたま／入間市議会陳情人／沖縄の映画を観よう!かわさき／静岡・沖縄を語る会／辺野古に土砂を送らせない!山口のこえ (3/2現在)

## 安倍元首相に“おまえが語るな”批判の大合唱！

フジ番組でウクライナ問題にペラペラ持論

(編集部)

《安倍元首相、「対ロシア外交」であれほご失敗しておきながら、ウクライナ問題について偉そうにフジテレビで持論を述べ、案の定、ネット上では批判の大合唱》を書き立てたのは『日



刊ゲンダイ』2/28 のデジタル版。要約すると――

<首相在任中「ウラジミール & シンゾウ」と仲の良さをアピールして、プーチン大統領の増長に加担した責任を果たすべきなのに、まるで他人事ですな> <おまえがウクライナを語るな！>

安倍氏は「ウクライナがロシアに侵攻されたのは核を放棄したから」という趣旨を語り、NATO 加盟国が採用している「核シェアリング」について日本も、議論すべきと強調した。日本の国是「非核三原則」について、『持たず、つくらず、持ち込ませず』のうち『持ち込ませず』を放棄すべきだ」と言いたいのは見え見え。

<ダメだこの人。ニュークリア・シェアリングのことちゃんと調べてないでしょ？>

現在、核シェアリングは、NATO に加盟するドイツ、ベルギー、イタリア、オランダ、トルコの 5 カ国と核保有国アメリカとの間で行われている。しかし、非核三原則を捨て去って大丈夫なのか。

軍事ジャーナリストの前田哲男氏はこう言う。

―― 核シェアリングは、アメリカと欧州の NATO 加盟国が冷戦時代から取っている体制です。核を保有していない NATO 加盟国にアメリカの核を配備している。欧州各国のパイロットは核投下の模擬訓練も受けています。ただし、核を管理する権限はアメリカにあり、有事の時、使用するかどうかの決定権もアメリカにあります。“シェア”した国が勝手に使えるわけではありません。レンタルとは違います。問題なのは、NATO の核シェアリングは、“核不拡散条約 (NPT)”の締結前から存在していたということです。すでに存在していた体制だったから NPT 締結後も認められている。日本の場合は、NPT に署名した後に実施することになり、NPT 違反に問われる可能性があります。抑止力が高まる可能性はあるでしょう。しかし、中国や北朝鮮、ロシアといった周辺国を刺激するのは間違いない。韓国が核保有に動く可能性もあります。北東アジアの緊張が一気に高まる恐れがある。それだけにアメリカが“核シェアリング”を認めるかどうかは分かりません。――

安倍氏一派は、ウクライナ危機に便乗し「敵基地攻撃」「原発推進」を進めようとしている。火事場ドロボー的なやり方は、ロクな結果にならない。安倍元首相はいつ、大親友のプーチン大統領を説得しに行くのか。 . . .

## 「不承認」支持 **ブルーアクション**パンフの活用を...

日本政府＝沖縄防衛局の辺野古新基地建設計画変更申請に対し、沖縄県は「不承認」としましたことは、皆様ご承知のとおりで、その県の対応を支持する「ブルーアクション」の「リーフレット 5000 部印刷出来」についても再三お伝えしてきましたが、配布・活用できます。

A3/二つ折りで、次ページ掲載・見本のとおりで(ただし、少容量 Mail の場合は掲載不可)、国会包囲実行委員会が作成。「不承認」理由は安保破棄中央実行委員会の協力で、わかりやすく説明しています。送付希望は毛利世話人か編集部にご連絡ください。

# 美ら海を守れ！ 辺野古新米軍基地は中止を！ 知事「不承認」これだけの理由

## ◎広がる軟弱地盤 作っても沈む、崩れる！

国が辺野古新米軍基地の設計変更申請を行ったのは、建設予定地に広大な軟弱地盤があることを認め、大規模な地盤改良工事が必要になったからです。その軟弱地盤は水深 90m にまで広がっていますが、現在の技術では水深 70m までしか改良できません。ところが沖縄防衛局は、巨大な護岸を作る下に広がる水深 90m の B27 地点の地盤データを調査していないのです。専門家の分析では、「震度 1 の地震でも崩壊する危険」があります。県は「災害防止に配慮しておらず、合理性のない計画だ」と、「不承認」にしたのです。

## ★政府は軟弱地盤隠していた！

実は軟弱地盤の存在は、4年前、故議長志知事（当時）が基地建設の埋め立て承認撤回を表明した時、すでに政府委託の地質調査業者の報告書で明らかになっていました。しかし、政府は「知らない」とうそをつき、埋め立て工事を強行したのです。

## ◎建設に 15 年余、2・5 兆円超 完成の見込みなし

地盤改良に伴う工事は、政府の試算でも工期が今後 12 年、工費も 9300 億円かかります（県の試算では 15 年、2・55 兆円超）。しかも、実際には作っても作っても地盤沈下してしまい、完成の展望はないのです。「これでは、政府が建設の理由にできた「1日でも早い普天間基地の危険性除去」にはつながらない」と、県は「不承認」決定を下したのです。

## ★米シグタングも「辺野古は困難」

米海軍系シグタング戦略国際問題研究所（CSIS）2021年3月18日報告書「完成が2030年までずれ込み、費用も高騰し、困難に直面している」【完成するとは考えられない】



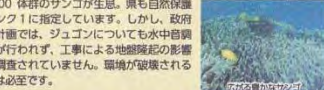
美しく豊かな沖縄県南護市辺野古・大浦湾の海を埋め立て、新たな米軍基地を押しつけようとしている日本政府。2021年11月25日、沖縄県の玉城知事は、政府・防衛省が県に提出していた設計変更申請を「不承認」としました。政府はこれに従い、ただちに建設を中止すべきです。

## 辺野古新基地で防衛省が計画している地盤改良案



## ◎豊かな生物多様性の海 ジュゴンもサングも死滅する

建設予定地の辺野古・大浦湾には、国際保護動物ジュゴンをはじめ、5300種類の生物と1万7000体群のサングが生息。県も自然保護ラング1に指定しています。しかし、政府の計画では、ジュゴンについても水中調査が行われず、工事による地盤隆起の影響も調査されていません。環境が破壊されるのは必至です。



## ◎沖縄戦戦没者の遺骨を投入!? 県民の心踏みにじる

国の計画では、基地建設に必要な埋め立て土砂を沖縄本島南部から採取しようとしています。そこは、太平洋戦争で無数の命が失われた沖縄戦の激戦地。多数の遺骨が眠る土地を掘り返し、基地建設に投入する——「人道的に許されないと」玉城知事は明言しました。



## ◎国の身内の審査で県の決定を覆す!? 民主主義破壊の暴挙です

岸田政権は、県の「不承認」決定に対し、防衛大臣が国土交通大臣に「行政不服審査」を申し立て、これを覆そうとしています。しかし、そもそも行政不服審査は「私人」が自治体等による行政措置の修正を国の機関に訴えるものです。しかも、防衛省には国土交通省から35人も出向し、一緒に基地建設推進をしている関係です。その身内の国土交通省に、防衛省への自治体の異議申し立てを取り消させる——こんな暴挙は許されません。



3/20

社会連帯カレッジ

リアル + オンラインで開催

沖縄復帰 50 年集会プレ企画

分断を超えて連帯へ

～住民自治を守り抜く闘いから～

日時：2022年3月20日（日）14:00～16:30

会場：日本労働者協同組合連合会本部 8階会議室（定員80名）

稲嶺進さんをお迎えしてリアル開催いたします。オンラインもあります。

稲嶺 進（いなみねすすむ） 1945年生。琉球大学法文学部卒業。1972年、護市役所に就職。2010年、名護市長選挙に「普天間飛行場県内 移設反対」を掲げて出馬し、初当選。名護市長を2期務める。

永戸祐三（ながとゆうぞう） 1947年、中央大学法学部卒。日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）連合会・理事長、労協センター事業団・理事長などを歴任。現在一般社団法人 日本社会連帯機構・代表理事をつとめる。

社会連帯カレッジ開催趣旨

2022年5月15日に本土返還50年をむかえる沖縄県の現状と課題、そして希望

を元名護市長の稲嶺進さん、日本社会連帯機構代表理事の永戸祐三さんの対談で語り合っています。

「核抜き本土並み」を思い描いていた沖縄県民の期待した本土返還は実行されず、むしろ沖縄と本土での基地負担の割合は50前より多くなっています。加えて新しい基地を辺野古に作るという暴挙は県民投票で明確に反対されたのにも関わらず粛々と進められたままです。地域を交付金という名目を使って分断し、住民の主体性を奪うような国のあり方に抗う力を高めていくためには何が必要か、また、本土にあって沖縄の現状をどう見つめ、連帯していくのか、今こそ問われているときではないでしょうか。日本社会連帯機構では改めてこの返還50年の時に模索を重ねてまいります。

リアル申し込み：

日本社会連帯機構事務局 電話 03(6907)8051 担当：飯沼、小松原

会場：〒170-0013 豊島区東池袋 1-44-3 池袋ISP タマビル 8階

(開場時間は13:30) 池袋駅東口より徒歩6分。

**地図があります。当メルマガ編集部 若槻へ**

オンラインは申し込み — <http://urx.space/R801>

パンフ・チラシ等を掲載したメルマガは、容量オーバーで、多くの皆さんにはお送りできませんでした。そこで、減量したメルマガをお送りしたのですが、**希望者には、チラシのPDFをお送りしますので、ご連絡ください。** (若槻)

~~~~~

## 「辺野古埋立土砂搬出反対！首都圏グループ」(確認点)

### 我々の主張と活動

一、 辺野古新基地建設とそれに関連する全ての施策・行為に反対します。特に本州・西日本各地からの埋立土砂の搬出に反対します。同じ趣旨で行動する首都圏の団体、特に「埋めるな連」「国会包囲実」「辺野古実」と共に積極的に運動します。

二、「辺野古土砂全協」の東京での行動、防衛省・環境省への申し入れや、国会請願行動を中心に担って行きます。

三、 同じ趣旨の市民団体と国会議員の共同行動を強化するため、国会ロビー活動を精力的に行ないます。

### 組織体制、組織の性格

わが「首都圏グループ」は、市民の緩やかな「運動体」で、組織としての拘束は行ないません。当面は会員制・会費制は取らないものとします。

運営は、活動を中心になって担うリーダーの「委員」(当面は10名前後)と、委員から選出された「世話人」(当面は3名)が中心に行ないます。なお、委員からは会費として年間2000円を徴収します。その他の必要経費は、カンパで賄います。





# 辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会 第9回定期総会in鹿児島

《許さない!南西諸島の軍事要塞化と辺野古への土砂搬出》

## 南西諸島防衛強化反対



馬毛島(南日本新聞より)

防衛省は南西諸島防衛強化と称して、沖縄の与那国島・宮古島・沖縄島・奄美大島に監視隊の配備と、地对艦・地对空ミサイルを配備する基地建設を強行しました。石垣島にも配備する計画です。特に、空白地帯として種子島の「馬毛島」に、米軍のFCLP訓練に加え、陸海空自衛隊の総合訓練ができる軍事基地の建設を、西之表市長や市民の反対を押し切って強行しようとしています。その鹿児島で、2022年度の総会を開催します。総会後は、薩摩半島の砕石場と「馬毛島」の視察を実施します。みなさん是非、ご参加ください。

■1日目…2022年5月28日(土)

会場:マリンパレスかごしま(鹿児島市与次郎 2-8-8 ☎099-253-8822)

《一部・鹿児島記念集会》13:30~15:50

①記念講演

テーマ…「軍事要塞化が進む琉球弧・馬毛島の現状と課題」

講師…磨島昭広さん(鹿児島県護憲平和フォーラム・事務局長)

②基調報告

テーマ「辺野古への土砂搬出・鹿児島の課題と希望」

報告…末田一秀さん(辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会・顧問)

③故郷の土砂を辺野古に使わせない…各地からたたかいの報告

奄美大島・徳之島・沖縄島南部

《二部・第9回定期総会》16:20~18:00

《三部・懇親会》18:30~20:30

鹿児島「おじよ太鼓(予定)」

■2日目…5月29日(日) 8:00~16:00

薩摩半島砕石場視察

■3日目(オプション)…5月30日(月)

鹿児島から種子島に移動

■4日目(オプション)…5月31日(火)

馬毛島上陸(約30分)・鹿児島本港南埠頭で解散

総会  
プログラム

最大約4,400万㎡の土砂が  
鹿児島から沖縄に



辺野古の工事現場(琉球新報より)

裏面の用紙で、申し込みをお願いします。締め切りは2月28日(月)です。

\*申し込みのキャンセルは5月10日(火)までに、それ以降は、キャンセル料が発生する場合があります。また、天候によっては、馬毛島に上陸できない可能性がありますので、予めご了承ください。



【お問い合わせは総会事務局】

kanpanerura888k@gmail.com(八記久美子)

090-3783-8332(阿部悦子)

**<ご注意> 参加申し込みの締め切りは、すでに過ぎています。お問い合わせ等は、首都圏グループまでお願いします。**

編集部日より

◆辺野古土砂・首都圏グループのメルマガです。コロナ禍での活動として取り組んでいます。投稿を歓迎します。内容は直接・間接に戦争・原発・辺野古新基地に反対している内容なら、自由。既発表もOKです。詩、短歌、俳句、写真や絵も歓迎です。◆多種が多すぎた場合、他の原稿のテーマのバランスから、掲載が延びることも。また、内容が運動の趣旨と合わない場合は、掲載を見合わせることもあります。◆コロナ禍の不自由な生活に負けない皆さんの積極参加、投稿を!

◆原稿は次へ、メールでお願いします。 辺野古土砂首都圏 <hnk000stkn@gmail.com>, また、従来どおり、世話人・編集委員の毛利、山咲、いまいち、若槻の個人メールでも受け付けています。